

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【京都市】

1 実践テーマ	【 I III V】
2 実施対象者	京都市立下京雅小学校 全校児童，保護者，教職員
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（道徳，学級活動）</p> <p>② 行事名（下京雅五大フェスティバル 雅心～ヒューマンフェスティバル～）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>○「人権（友達）を大切に子ども」への指導をより確かなものにするために、また、家庭においても人権問題が正しく受け止められる基盤を作るために、児童、保護者、教職員が人権についての意識を高め合い、深め合う。【探究・ふれあい】</p> <p>○「すべての人が生まれてきたことを喜び合える社会」に向かう社会に開かれた教育課程を構築する。【探究】</p> <p>○オリンピック・パラリンピック（以下、オリパラ）を題材にした授業やパラリンピック選手の講演を通して、障害や障害者に対する理解を深め、オリパラを身近に感じ、2020年に東京で行われるオリパラを応援する気運を高める。【探究・ふれあい】</p>
5 取組内容	<p>◎校歌（手話付き） 昨年度のヒューマンフェスティバルにおいて、新しい校歌の作詞をしていただいた先生をお招きした。その際に、校歌に込められた思いを聞かせていただくとともに、その校歌を、手話を使って歌うことに挑戦した。今年度も昨年度同様に手話付きの校歌に取り組み、校歌の歌詞の意味を考えながら、人権月間のスタートをすることにした。</p> <p>◎人権の歌「いのちの歌」 本校では、年間2～3曲を全校合唱する取組を進めている。人権月間では、人権の歌として、「いのちの歌」の合唱に取り組むため、事前に各学年で練習を進めた。</p> <p>◎人権標語の作成 人権月間に合わせて、一人一人が人権標語を作成し、その標語をパーテーションに貼り、体育館前廊下に掲示し啓発した。同時に、4</p>

～6年生は、学級1点を下京中学校ブロック人権標語の取組として、出展した。

◎保護者への情報発信

ヒューマンフェスティバルへの参加を、学校だよりや学年便り、HPなどを活用してうながした。また、当日の講師である、島田務選手についてのプロフィールについて、プログラムを配布した。

◎オリパラに関する授業を通して、人権についての意識を高め合い、深め合う。

国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」を活用し、学習したこと、感想や質問をまとめ、フェスティバルで発表できるようにした。

<低学年>パラリンピックについて知って、親しみをもつ。

<中学年>パラリンピックについて知って、親しみをもち、障害や障害者についての理解を深める。

<高学年>パラリンピックについて知って、親しみをもち、障害や障害者についての理解を深め、共に生きていこうとする態度や心情を育てる。

◎パラバドミントン日本代表選手である島田務選手をお招きしての講演会

下京雅五大フェスティバルの一つである「ヒューマンフェスティバル」に位置づけて開催した。講演は、対談形式で行った。質問項目は、子どもたちが考えた内容から選び、島田さんの人柄や努力が伝わるようにした。主な質問項目は以下の通りである。

<バドミントンにかかわって>

- なぜ、数あるスポーツの中でバドミントンをしようと思ったのですか？
- スポーツをしよう、パラバドミントン選手になろうと思ったのはなぜですか？
- バドミントンをしていて「楽しい・嬉しい」と感じたのはどんな時ですか？
- いつからバドミントンをしようと思ったのですか？
- やめたいと思ったことはありますか？
- 車いすに乗ってどのようにバドミントンをしているのですか？手をたくさん使うので大変ではないですか？
- 島田選手にとって、バドミントンとは何ですか。

<自分自身にかかわって>

- 苦しいときや辛いときは、どのように乗り越えてきたのですか？
- 一番うれしかったこと、一番苦しかったことは何ですか？
- 人生で心に残っている出来事や試合は何ですか？
- 自分自身を変えてくれた人はいますか？
- 障害を受け入れるときのお気持ち（可能であれば教えてください。）

<日常生活にかかわって>

- 車イス生活で大変なこと、辛いことは何ですか？

島田さんからは、「障害があってもなくても、楽しく生活できる」「目標をもって日々努力している」といった力強い、前向きな話を聞かせていただいた。また、実際に車いすを体験する機会も設けた。競技用の車いすを



操作する貴重な機会であり、子どもたちは楽しそうであった。講演と同時に、実際のプレーもを見せていただいた。実際のプレーでは、体を大きく反らして シャトルをコートの後ろまで勢いよく飛ばす姿や、力強いスマッシュを打つ姿を見せていただいた。子どもたちからは、「障害があるとかないか関係なく、スポーツを楽しむ心は同じ」「目標をもって頑張っておられる姿に感動しました」「これまでパラリンピックについてあまり関心がなかったけど、2020



東京パラリンピックでは、様々な選手を応援したい」となどという声が聞かれた。



6 主な成果

○オリパラを題材にした授業やパラリンピック選手の講演を通して、障害や障害者に対する理解を深めることができた。また、オリパラを身近に感じ、東京オリパラ2020に対する興味関心が高まった。子どもたちの振り返りカードの記述例は以下の通りである。

- ・障害があってもなくても、何か一つのことを続けるということはとても大切ななと思いました。
- ・島田選手があきらめずに一生懸命頑張っていて、私もがんばらなきゃと勇気をもらいました。
- ・島田選手の話で心に残ったのは、「だれでもスポーツを楽しめる」というところです。私は運動が好きではないけど、もっとやってみようと思いました。
- ・車いすのタイヤが何個あるとか、タイヤが傾いているとかが分かりました。

○保護者アンケートにおいて、非常に肯定的な評価をいただいたことから、保護者の人権に対する思いや考えが広がったり深まったりしたと推測できる。保護者アンケートにおける、自由記述の例は以下の通りである。

- ・島田さんは、絶望を味わったあと、前向きな考えをもってここまで頑張ってくれたんだなと思いました。とても感動的な話を聞かせていただき、子どもも親も、パラリンピックや障害がある方への意識がより良い方向へ向かったと思います。
- ・島田選手の試合は、とても興奮しました。障害について、人権について、家で改めて話す機会となりました。
- ・初めてパラバドミントンを見ました。子どもも大人も真剣に応援しました。様々な話を聞かせていただき、非常に関心を持ちました。子どもたちの心にも深く印象に残り、考えたり感じたりする学習であったと思います。ありがとうございました。

7実践において工夫した点(事業の特色)

- ◎下京雅五大フェスティバルの一つとして、年間計画に組み込み、カリキュラム・マネジメントを積極的に行ったこと。
- ◎一人一人がめあてをもって学習にのぞんだこと。
- ◎授業と講演で一つのフェスティバルとしたことで、講演が単発に終わらず、今後の生活につながっていくようにしたこと。
- ◎現役選手を招き、東京2020へのさらに高めようとしたこと。
- ◎保護者を巻き込んで、学校だけではなく家庭を巻き込んだ取組にしたこと。

8主な課題等

- 保護者の参加者数が読めなかったため、保護者用いすを用意しておらず、結果、立ち見となってしまったこと。

	<p>●事前の取組において、興味関心を高める取組が不十分であったこと。例えば、関係図書の整理、校内掲示の充実など。更に工夫することが出来たのではないか。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○下京雅五大フェスティバルは継続して行う予定であり、ヒューマンフェスティバルも開催する方向である。しかし、このヒューマンフェスティバルは、人権参観懇談会を兼ねた取組である。今年度は、障害に関わったテーマの中で、「オリパラ教育」を取り上げて学びを深めたことから、来年度は、さらに違った方面の人権問題を取り上げる予定である。その中で、オリパラ教育に関わる内容であれば、検討したい。</p>